

令和6年度第1回国有林材供給調整検討委員会

(概要)

1. 開催日時

令和6年6月7日(金) 13時20分～15時30分

2. 開催場所

中部森林管理局 大会議室

3. 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

4. 検討結果

全国的な木材需要動向をみると、新設住宅着工戸数の減少傾向が継続しているほか、プレカット工場等の稼働率についても低調だった前年並みの受注量も確保できない実需不足の状況が続いており、国産材製品は全国的に荷動きが振るわず、相場は弱保合で推移している。

また、木材需給の先行き不透明感が増す中、今後の国有林材の供給に当たっては、地域の木材需給動向はもちろん、花粉症発生源対策など民有林施策への影響にも注意を払いながら、今後の国産材需要動向に注視していく必要がある。

一方、中部局管内の原木価格に目を向けると、地域によってスギやヒノキの上昇傾向が散見されるが、概ね横ばいで推移しており、全体的にはウッドショック以前の価格よりやや高値で踏みとどまっているものの、木材需給の先行きは不透明感が広がっている。

こうした状況を見据え、中部局管内では、引き続き本年度計画している製品生産事業を着実に実行し、市場等への速やかな木材の供給を行うことにより、管内の市況の安定化を図ることが重要であり、当面、供給調整の必要はないと考えられる。しかしながら、木材需給の先行き不透明感が継続していることを踏まえ、今後の国産材需要動向に注視しながら、地域に応じた予防的な措置として立木販売の搬出期間の延長を行うことが望ましい。

5. 委員意見等

○在庫が増えない様、量は多く出せずとも細かい選木をすることにより中・小規模の工務などに売り込みを行っている。住宅着工戸数の伸び悩みを踏まえ、幅広い視野を持って販売努力をしている。

先を見据え、販売先の拡大や販売ルート維持に努めている。国有林からの安定供給は必要不可欠である。

○木材生産量に関して言えば、能登半島地震の影響は続いている。また、静岡県及び太平洋側の生産量が若干減少していることが気になる。

地元の製材工場がリニューアルし稼働を始めたことで、原木在庫量が冬場から変わらず推移している。これから虫害の時期に入るため、やや消極的な状況も見受けられるが、販売努力を継続していく。

C・D材の関係については、木材生産量が上向かない現状の中、数量確保に苦労している状況は変わらない。

立木販売については、少ない時でも在庫として3～4万m³は持っていたい。今後も立木の購入について前向きに考えていきたい。

○立木販売で例えるなら、国有林の安定雇用に関する考え方が見えにくい。県などはここ数年で公社造林等について色々な動きがあり、相談をしたり受けたりしている。先行きが見える雇用に努めているように感じる。

製品生産事業における入札不調が多い要因として、近年の生産現場は奥地化するとともに非常に厳しい現場が多いと感じる。何十年も生産現場で働かせていただき幾多の現場を見てきたが、最近の現場は非常に過酷かと。若い人たちが入ってきてても結局、この現場をやってもらうのは危険度が高く難しいとの判断になってしまう。新たに入ってきた人たちが、このような現場で対応していくことは難しいものと考えている。

一方、木材の生産量（伐採量）は現状維持を期待したいが、私たちも実行（実施）方法を変え対応していく必要があると考えている。変えるのは搬出方法かと。車両系から架線系へ。架線系も今後益々グレードアップしていくものと推察する。架線系は山にも優しく、決まりさえ守って実施すれば危険度も少ない安全作業であることを広く認識すべきである。

立木販売の搬出期間については短期的な対応ではなく、理由があるものに対し臨機に対応すべきではないか。

○物価の上昇や能登半島地震等の影響、また、端境期ということもあり、4月と5月のヒノキ入荷量は約17%程度減少している。スギやカラマツの入荷量は若干増えていると聞いているが、全体的な入荷量は減少傾向である。今後、事業も順次始まり、入荷量は前年度並みになってくるものと考えている。

製材品については依然として厳しい状況が続いており、住宅需要の落ち込みで国産材の価格は厳しい。製材相場というものもあるが、それ以上に住宅の需要が悪く価格に反映されていないというのが現状。

立木販売には雇用対策といった側面もある。立木販売についても安定的な取組の推進をお願いしたい。

○円安や燃料費の高騰により7月の契約単価は確実に上がるものとみている。多くのマーケットで需要は落ち込んだままだが、輸入材を値上げしていくのは7月からとみている。

国産材の価格は落ちてきている。3年前からを考えると、確実に賃金は上がっているし、電気代も上がっている。そして、様々な経費が上がっている。何故に原木価格だけが下がるのか不思議でならない。ウッドショック以前の価格に戻りつつある。経費が上がっているのだからそれをキープした上での価格設定をすべき。